

令和4年度 江戸川区立篠崎第二小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	光る子 ～人間性と想像力を豊かに、心身たくましく～	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○子供たちが明るく元気に学校生活を送れるように、自己肯定感を育み、認める・褒めることを基本とする教育を推進する学校 ○善悪を正しく判断して、思いやりをもって人と接し、困難にも諦めずに最後までやり抜くことができる児童 ○社会人、公務員としての自覚と認識をもち、指導力向上を図り、職務を遂行することのできる教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> ・学校として取り組んでいる内容に関して、85%以上の保護者が、指導に対して効果があると肯定的に捉えている。 <課題> ・全国学力調査での都の平均正答率に迫れるような基礎学力の定着 ・児童の体力向上、教職員の学習指導力の向上 ・学習用タブレット端末の積極的かつ効果的な活用		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策	
					取組	成果	成果と課題	評価		コメント
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・7つの主要な事業(取組)に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実 ・一人一台端末を活用した個別最適な学びの実現 ・学力向上のための補習の充実 ・「江戸川っ子 study week」の実施 ・東京ベーシックドリルの活用	・各学期「eライブラリアドバンス江戸川っ子study week!」を実施し、学習用タブレット端末を活用して算数科を中心とした家庭学習に取り組ませる。また、タブレット端末は、学校においても各教科で効果的に活用し、個別最適な学びの助けとする。 ・各学期「東京ベーシックドリル活用期間」を実施し、朝学習やフレキシブルタイム等で算数科を中心として東京ベーシックドリルに取り組ませる。期間終了後に診断テストに取り組ませ、学習内容の定着の確認をする。 ・補習教室(外部委託、学校独自)やeライブラリアドバンス、東京ベーシックドリル等を活用し、学習の基礎基本の定着を図る。	・各学級の90%以上の児童が、学習用タブレット端末を活用した家庭学習に取り組むことができる。 ・学校でのタブレット端末の活用を平均1日1回以上にする。 ・東京ベーシックドリル診断テストの誤答数の減少児童を90%以上にする。 ・各ワークテストのクラス平均を80%以上にする。	A	B	○多くの教職員、児童がタブレット端末の活用に関し、個人の学習だけではなく、考えを共有し合ったり、プレゼンテーションソフトの共同作業をしたりする場面が見られた。 ○江戸川っ子study week!と東京ベーシックドリル活用期間を活用して、前学年の内容を復習する意識を児童に付けさせることができた。 ●補習・地道に取り組む成果を上げる児童もいれば、取り組みの姿勢が不十分で、成果を上げられなかった児童もいた。 ●各児童の理解度に差があり、ワークテストの平均を80%以上にすることができなかった。	B	・「学習用タブレット端末の活用」による補習の対象児童が選定するのではなく、希望する児童(家庭)が受けられるようになるという安心感につながる保護者もいると思う。 ・学習の取り組み状況や理解度などを保護者とも共有していき、学校での補習や家庭学習を進めていってほしい。	・「江戸川っ子study week!」は、学年の実態に応じて、一斉の課題を出したり、自分が必要とする単元を選ばせたりする。自ら取り組めない児童へは保護者に連絡をして、家庭での呼び掛けの協力を仰ぐ。 ・各教科等において、児童にとって学習効率が高まるようなタブレットの活用方法を検討・実施し教職員間で共有する。 ・補習教室の課題は対象児童が不得手とする項目に取り組ませ、家庭学習の課題は多くの児童が苦手とする項目を中心に取り組ませるなど、形態に応じた課題を出せるよう学年担任間で内容を選定する。
	体力の向上	・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	・前年度の体力テストの結果を参考にして考案した、本校オリジナルの準備運動「篠二エクササイズ」に全学年で取り組む。 ・毎週水曜日中休みのぐんぐん水曜日を活用して、学級や学年で運動遊びに取り組む。 ・競技の専門家を招いた体育の学習を計画して実施する。	・体力テストにおいて、4つ以上の項目で、昨年度の江戸川区TSスコアを超える。(全学年のTSスコア平均値) ・ぐんぐん水曜日時に、怪我や体調不良の児童を除く全員が学級や学年で設定した運動遊びに取り組む。 ・競技の専門家を招いた体育の学習を実施する。	B	C	○ぐんぐん水曜日が児童に定着しており、多くの児童が水曜日の中休みに運動遊びに取り組むことができた。 ○子どもと笑顔になるプロジェクトで縄跳びパフォーマンスによる授業を全学年で行い、運動意欲の向上につなげることができた。 ●体力テストにおける前年度の江戸川区TSスコアを上回った項目が3つにとどまった。	B	・競技、種目の専門家を招いての授業は児童の興味や関心を高めるのに効果的なので、もっといろいろな内容で実施できると良い。 ・児童が体を動かさずに楽しめるコンテンツが充実しているため、様々な形を模索しながら児童の体力向上に努めてほしい。	・体力テストの結果から、TSスコアの低い項目の体力を高めることに特化して「篠二エクササイズ」を体育指導部を中心に考案したり、ぐんぐん水曜日における遊びの内容を考えたりする。 ・コロナ禍において招くことが可能な競技の専門家リストアップして、特別授業を計画していく。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・読書科や各教科、総合的な学習の時間において「調べる」「まとめる」「発表する」学習活動を計画的に取り入れる。 ・調べたまとめたことを発表し合う、学習の成果発表を行う。 ・調べる学習コンクールへの参加を児童に呼び掛ける。 ・区立図書館司書と連携を図りながら、学校図書館を充実させる。	・全学年が「調べる」「まとめる」「発表する」学習活動を通して、「調べる学習」のまとめを年間2作品以上作る。 ・3学期に、発表する対象を定めた、学習の成果発表を行う。 ・全学年の10%以上の児童が調べる学習コンクールに作品を出品する。	A	B	○全学年が「調べる学習」において、グループで共同してまとめる作品も含めて2作品以上作った。 ○学習の成果発表を実施し、ペアを組んだ学年を意識して調べたまとめたことを発表した。 ○夏季休業日に、学校図書館を活用した調べ学習の講座を開き、その際の作品を調べ学習コンクールに出品した。 ●相手に調べたことが伝わるように、興味をもたせるように発表資料を作成したり、発表の方法を考えたたりすることを、発達段階に応じて系統性をもって指導することができた。	A	・調べたまとめたことを発表する機会があることは良い。 ・調べた活動で安易にインターネットに頼るのではなく、信頼できるソースとしての図書資料を有効活用できるようになると良い。 ・学習の成果発表を実際に参観したかった。	・各教科等における参考図書を学校図書館司書に選定してもらい、授業や朝読書で活用する。 ・学習の成果発表の実施案を、総合的な学習の時間部を中心に本校の児童の実態に合わせた内容になるように検討し、職員会議で内容の周知を図る。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・モンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・指導上配慮を要する児童の情報交換を毎週1回行う。 ・各学期1回特別支援教育全体会を行い、配慮を要する児童への対応について全教職員で周知する。 ・特別支援教育に関するOJT研修を行い、ユニバーサルデザインに即した環境づくり、授業展開に努める。 ・「学校レガシー2020」として、セルビア共和国についての調べ学習や、同大使館との交流活動を実施する。(第5学年)	・家庭や児童相談所等の関係諸機関、スクールカウンセラーと連携を図りながら、不登校傾向にある児童の出席回数、教室に入れる頻度を増加させる。 ・巡回指導にかかわる児童の個別指導計画、配慮を要する児童に対する共有シートを作成し、その内容を周知し、全教職員が児童一人一人に合った対応をする。 ・第5学年児童の90%がセルビア共和国への理解を深める。	B	B	○週に一度の生活指導連絡会、学期に1回の特別支援教育全体会を通して、配慮を要する児童の様子や対応について共通理解できた。 ○巡回指導の教諭やスクールカウンセラーと連携した特別支援教育にかかわるOJT研修を実施し、ユニバーサルデザインに即した環境づくりや授業展開について理解を深めた。 ●第5学年がセルビア共和国の調べ学習を通して同国への理解を深めたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、セルビア共和国大使館との交流を実施することができなかった。	B	・新型コロナウイルスによる行事や学校公開等の制限が徐々に緩まる中で、保護者が学校を訪れる機会も増えてきた。おかげで児童の様子を見取ることができてきたので、次年度も可能な限り学校公開等を実施して欲しい。 ・様々な児童がいるので、特定の児童に対する対応の充実と周囲のケアを教職員全体で周知、徹底してほしい。 ・セルビア共和国大使館との交流から得られることはあると思うので、活動を継続し、調べ学習以外の交流方法を見いだしてほしい。	・巡回指導にかかわる教職員、スクールカウンセラーとの打ち合わせの時間を確保し、配慮を要する児童の対応方法を共有し実施する。 ・個別指導計画や配慮を要する児童への対応方法を、特別支援教育コーディネーター、特別支援教育専門員、巡回指導にかかわる教職員、スクールカウンセラーと連携して取りまとめ、次年度以降にその内容を確実に引き継ぐよう、学年末に共通理解する時間を設定する。 ・コロナ禍におけるセルビア共和国大使館との交流方法を計画して実施する。
	子供たちの健全育成	・子供たちの健全育成に向けた取組	・特別活動等で、「江戸川区子ども権利条例」の理解を図る。 ・篠二スタンダードを活用し、校内におけるより良い生活習慣を確立させる。 ・週に1回、全教職員参加の生活指導連絡会を実施する。 ・6月と11月に「Hyper Q-U」を実施し、学級の実態を把握し、より良い学級集団を形成する。 ・スクールソーシャルワーカーを有効に活用する。	・学年に応じて、ほとんどすべての児童が権利条例の内容を知り、守ろうとしている。 ・90%以上の児童が篠二スタンダードを守る。 ・いじめ認知件数を減少させる。 ・11月の「Hyper Q-U」実施時に、6月より学級満足度の児童の人数を増加させる。	B	B	○週に一度の生活指導連絡会で、全教職員が各学級の児童の様子を共有できた。 ○いじめと認知された事柄に対して、いじめ対策委員会等で対応を協議し、全教職員に周知し対応にあたる。また、必要に応じて ○11月の「Hyper Q-U」において、学級満足度の人数が増加した。 ●篠二スタンダードにおける「廊下や階段を静かに右側を歩く」ことを達成できる児童が90%に届かなかった。	B	・児童が自己肯定感を高めることができるような取り組みを今後も考えて実践してほしい。 ・保護者会で報告されたことに関して、その後の進捗状況がタイムリーに知らされたかったこと、問題が起きた際の要因への対応の仕方が不十分だと感じられたことが残念だった。	・きまり直し週間を通して、篠二スタンダードを守る意識付けを図る。特に全校をあげて取り組むべき「廊下、階段歩行」の改善のための手立てを生生活指導部を中心に考え実施する。 ・「Hyper Q-U」を学級経営に生かすための研修を、学級経営担当の教職員が実施する。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・6月の職員会議において、学校関係者評価の内容を周知し、10月の職員会議で中間評価を共有することで、本校で設定した重点項目の達成を目指す。	・7項目中、6項目以上で自己評価の取組と成果をB基準以上にする。 ・7項目中、6項目以上で学校関係者評価をB以上とする。	B	B	○7項目中6項目で自己評価の取組と成果をB基準以上にした。 ●学校関係者評価の具体的な取組と数値目標を職員会議だけではなく全教職員で確認し合う機会を設定し、その時点で状況は共有し合う必要がある。	B	・「子どもたちのため」という信念があつて取り組んでいることは今後も継続してほしい。 ・学校関係者評価等のアンケートをインターネット上(Forms)で行う方が取り組みやすい。	・教職員には6月と10月の職員会議内だけでなく、学期に数回は内容と進捗状況を確認し合う。地域、保護者には保護者会や学校ホームページを基に本校の取り組みを知らせ周知する。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・学校行事を精選して、適切な授業時数・諸会議を設定する。 ・副校長補佐やSSSを積極的かつ効果的に活用する。	・1ヶ月の在校時間が正規の勤務時間から45時間を超えない)かつ「1年間の定時外在学等時間が360時間を超えない」教職員の数を前年度より増加させる。	A	B	○副校長補佐やSSSに業務依頼することで、「1ヶ月の材工時間から正規の勤務時間から45時間を超えない」教職員の割合が前年度より増加した。 ●校務分掌における負担のバランス、SSSのより良い活用方法を検討していく必要がある。	B	・配慮を要することが以前よりも増えているので、SSSがいってくれた方が安心感につながる。	・更なる副校長補佐やSSSの積極的な活用を図り、前年度の分掌担当や学級担任との連携の強化を呼び掛け、職務を効率化させる。